

学会長からのご挨拶

第 58 回 日本高気圧潜水医学会 学術総会
学会長 川 眞之
(社会医療法人玄真堂 川 眞之 院長)

この度、日本高気圧環境・潜水医学会（JSHUM）と日本臨床高気圧酸素・潜水医学会（JACHOD）合併後初の記念すべき第 58 回日本高気圧潜水医学会の学術総会会長を仰せつかり、光栄に思うとともに身の引き締まる思いでございます。学会のテーマとして、“雲外蒼天”という言葉掲げました。“苦勞して困難を乗り越えた先には明るい未来がある”という意味です。合併に至る経緯については前回の学術総会の特別講演にて柳下和慶先生と四ノ宮成祥先生よりお話があったとおりで、多くの先生方のご尽力によって目的を同じくする 2 つの学会が歩みを共にすることが実現しました。それぞれの学会のこれまでの経験を集結することで、日本の高気圧・潜水医学の未来に明るい展望をもたらすことと思います。

開催にあたりゲストスピーカーとして、アメリカの Undersea and Hyperbaric Medical Society (UHMS) Executive director の John S Peters 氏、カリフォルニア Long Beach Medical Center の Michael Strauss 先生、ウィスコンシン大学の Aleksey Sobakin 氏、高圧生理学の第一人者である関邦博先生をお迎えする予定です。海外を含め世界の第一線で御活躍されている多くのゲストをお迎えすることができ、大変嬉しく思うとともに招請にご快諾していただいた先生方に感謝申し上げます。この学会を通じて、学術的な知識や国際的な交流を深め、新たな視点を得る機会となれば幸いです。

近年の本学会では臨床工学技士や看護師の方々向けのセッションも数多く見られます。UHMS においても職種別の部会が毎年開催されています。これは高気圧酸素治療が医師のみでなく技師や看護師の皆様の手を離れず成り立たないことを物語っています。皆様の専門知識と経験は、本学会をより豊かなものにすることと確信しています。多くの方のご参加と活発な討議を期待しています。

中津市は、心臓の刺激伝導系を解明した田原淳先生や、慶應義塾を創立した福澤諭吉先生といった偉大な学者を輩出し、解体新書を刊行した前野良沢を含む多くの蘭学者にゆかりのある歴史的な町でもあります。中津市はその誇りを胸に、

市全体で「蘭学の里」としてのアピールを精力的に行っています。学会終了後には、村上医家史料館や大江医家史料館など、医学史や蘭学の面白さに触れてみるのはいかがでしょうか。また、大分県は言わずと知れた源泉数世界一を誇る“おんせん県”です。別府や湯布院、あるいはお隣熊本県の阿蘇山などへ足を延ばし、温泉で日頃の疲れを癒すのもおすすめです。大分県は食に関しても魅力（味力）満載で、中津からあげやとり天、夏に旬を迎える豊前海の鱧、おおいた和牛や豊後牛、佐賀関の関アジ・関サバ、ワイン、焼酎など、山海の幸がたくさん揃っています。“日本一のおんせん県おおいた”を存分に楽しんでください。